リーディングDXスクール事業 【実践事例】

武雄市立武雄小学校（佐賀県）

【取組内容①】 友達を参考にして考えや学習方法を修正・調整し、子どもたち自身で進めていく授業実践

・６年社会（新しい日本へのあゆみ）
・学習計画や評価基準を児童と共有することで、学習の見通しをもち、意欲的に学習に向かうようにした。（**図１**）
・「政治」「国際社会への復帰」「経済の発展」「人々のくらし」「外国とのつながり」「国際社会の課題」の６つの中から、自分の調べたいテーマを決定するようにした。児童は、１つまたは複数のテーマを自己決定し、調べてまとめる活動を行った。
・あらかじめ、家庭での予習によって、自己の考えを準備しておくようにした。
・ワークシートや振り返りシートを友達と共有できるようにし、考えを広げたり深めたりできるようにした。また、教師も児童のシートを見て進度を把握し、即座に支援にあたった。（**図２・図３**）
・シートのまとめ方を児童に委ね、集めた資料を取捨選択しながら、考えを作り出していくようにした。（**図３**）
・協働的な学びと学習の定着をねらい、終盤にまとめたシートを用いて交流する場を設定した。

図１　児童と共有している学習計画

図２　授業の振り返りシート

図３ 児童の学習シート

・授業１時間だけを考えるのではなく、ゴールから逆算して学習計画を立てた。
・学習のめあてやテーマを自己決定する場を設定し評価基準を提示したことで、意欲的に学ぶ児童が格段に増えた。
・学習方法や進度を自分で調整し、他者を参照できる環境を設定したことで、自分たちに合った形で学習に向かうことができた。